

「三位一体の聖エリザベトとともに歩む」

(3)三位一体の神の住まい



兄弟姉妹の皆さま

厳しい暑さが続いています。皆様お元気でお過ごしでしょうか。

私は、4月末から7月までホームリーブでインドネシアに帰国していました。少し期間が空きましたが、三位一体の聖エリザベトの話の続きです。

三位一体の神の住まい

人間の心の奥底にある神の存在は、神聖な三つのペルソナすべてが同時に存在することです。キリスト者の教義には次のように述べられています。「神は実質的に1人、人として3人です。神は一度に1人と3人です。この団結は不可分です。」

神は霊であるため、この存在は霊的な存在です。信仰だけがこの存在を体験することができます。信仰は、魂を神の存在に運ぶ乗り物のようなものです。したがって、神が人間の心の最も深いところに存在し、人間が神の住む場所であるなら、それは三位一体の神の存在として理解されます。

エリザベトは次のように書いています。「父は私たちの心の中に住んでいます。昼も夜も、父は神聖な人生を私たちと分かち合うために愛をもって共におられ、私たちが父の輝きを映し出せる、熱心な人々であることを望んでおられます。」

私が父の中にいるように、私にとどまりなさい。

エリザベトにとって、それは人間の心の最も深いところに存在する神との一致に向けて個人的な関係を築くことへの招待です。

「聖三位一体の神はさらに私たちの住む場所であり、私たちの家であり、私たちが決して離れてはならない私たちの父の住まいです。…したがって、私たちは毎日この道を下りて、神ご自身である深遠な谷に入る必要があります。愛情のこもった信頼をもって、この谷の奥深くまで自由に沈んでいきます。そこでは、私たちの無の深い谷が向かい合って、神の憐れみの深みに、世界の神の偉大さや全能性ととも沈みます。」

この愛の関係に入ると、私たちは神と人生を分かち合い、三位一体の神の神秘の最も深い核心に導かれます。私たちが神のご意思に従って歩むなら、私たちは三位一体の神の神聖な人生を照らし出すでしょう。神は私たちの心の奥深くに住んでいるので、神の祈りは私たちの祈りでもあります（ローマ8:26 参照）。

「私はこれを感じ続け、噴水の近く、生命の噴水に自分自身を小さな水差しにし続け、それから私が彼に魂を捧げることができるように、つまり彼の愛の水をこぼすことによって彼を与えることを望んでいます。私を通して。」

私たちの心の奥深くにある神との関係は、ついに使徒的価値を持ち、人々を神と同じ関係に導きます。

三位一体の神の居住は、精神的な生活の発達に大きな影響を及ぼします。エリザベトにとって、この存在の最初の効果は、自分自身を忘れるという完全な行為でした。もはや人間ではないが私たちの存在全体に浸透する特定の孤立を伴う完全な解放。彼女の著作の1つで述べられているように：「彼の愛の王位があなたの内なる王国に完全に根ざし、彼の愛の偉大さがあなたを完全に忘れさせてくれるように。そのような完全な救出を達成した魂は幸いです。」

恋に落ちた自分を忘れるという行為は、私たちを神と一つにします。それは言葉では言い表せない喜び、平和、そして幸福の源です。この経験は、私たちが神と向き合うことができる永遠の人生の前提条件です。神は生きておられるので、神との一致の経験は、この世にあって私たちにも達成できると聖人たちは言っています。天国はこの一致の頂点であり、その実は説明を超えた至福です。そして、この神の存在の次の効果は喜びです。この世にあって天国を経験しているのです。これがカルメル会の規則の意味するところです。人生の目的は「死後だけでなく、この世界に生まれて以来、神の臨在の力と天の栄光の甘美な精神を体験すること」です。

エリザベトの神秘的な生活は、すべての信者を心の最も深いところに戻るように誘います。神は人間からそう遠くはありません。それは私たちの心の中にあります。三位一体の神の存在へのこの統一された心を通して、人間は栄光のうちに君臨する神を見つけるでしょう。エリザベトは、すべてのキリスト者に、彼女の使命の意味、つまり、心の最も深い部分に存在する神との一致に到達することの意味を認識させました。

聖マキシミアノ・マリア・コルベ司祭と聖エリザベトの取次ぎを願いながら、台風の被害にあわれた方々、マウイ島の火災で被災された方々に一日も早く穏やかな生活が与えられますよう、お祈りいたします。

2023年8月9日

カトリック上野毛教会 主任司祭
ペトルス・ウィリー・ソバ・ドイ O.C.D.